

R

KANSAI
UNIVERSITY
NEWSLETTER

Man is a Thinking Reed.

Reed

No. **75**

December, 2023

関西大学ニュースレター

発行日：2023年(令和5年)12月20日
発行：関西大学 総合企画室広報課
大阪府吹田市山手町3-3-35
〒564-8680 / TEL.06-6368-1121
www.kansai-u.ac.jp



Nipponham Group

たんばく質をもっと自由に。

■対談
井川 伸久・日本ハム株式会社代表取締役社長
・株式会社北海道日本ハムファイターズ取締役オーナー
芝井 敬司・学校法人関西大学 理事長

画期的な商品で 日々の食卓に「食べる喜び」を — the joy of eating — 生きる力の素「たんばく質」で食の領域を広げる

- 対談 —1
- リーダーズ・ナウ —7
卒業生
仕事も子育ても
人生の基礎は「秀麗寮」に
・株式会社鶴屋百貨店
子供用品部部长 松本 晃世 さん
誰もが報われる拠り所にしたい
コロナ禍を経て感じた清水寺の存在意義
・清水寺僧侶 大西 英玄 さん
- 研究最前線 / Research Front Line
統計科学の理論や応用を研究
数学をがん対策に生かし、
社会のために —15
社会安全学部 — 福井 敬祐 准教授
・Using Mathematics to Fight Cancer
and Benefit Society
Faculty of Societal Safety Sciences
— Associate Professor Keisuke Fukui
- 新キャンパス開設特集 —19
吹田みらいキャンパス START!
- トピックス [学内情報] —21
- 社会貢献・連携事業 —22
- 関大ニュース —23

■対談

the joy of eating

画期的な商品で
日々の食卓に
— the joy of eating —
「食べる喜び」を

生きる力の素「たんぱく質」で
食の領域を広げる



■日本ハム株式会社
Nipponham Group

大阪・梅田に本社を置く大手食品メーカー。1942年「徳島食肉加工場」として創業し、1963年現在の「日本ハム株式会社」に。戦後の食糧難に食肉を通して良質なたんぱく質を供給した同社は扱う食の領域拡大や海外への進出により発展。ライフスタイルの多様化に合わせた新しい食文化の提案やプロ野球球団の経営に携わる。2023年3月現在、国内食肉加工業界売上1位、国内の食肉市場全体のシェア約20%を占める。

井川 伸久 • 日本ハム株式会社 代表取締役社長
株式会社北海道日本ハムファイターズ 取締役オーナー

芝井 敬司 • 学校法人関西大学 理事長

食卓でお馴染みのハムやソーセージ、食肉、加工食品、乳製品や水産物などさまざまな「食」で、日本人のたんぱく質摂取量の約6%を供給するニッポンハムグループ。さらに、プロ野球球団や球場の運営を通して、食とスポーツを融合したエンターテインメントを提供し、地域社会の発展にも力を入れている。そのニッポンハムグループをけん引する井川伸久日本ハム株式会社代表取締役社長を芝井敬司理事長が訪ね、学生時代から現在に至るまでの足跡をたどりながら、食を中心に展開するさまざまな事業や関西大学への期待などをお聞きした。



学業やサークル活動に対して熱心に取り組んでいた学生時代の井川さん(写真・右)▶

◆「商売がしたい」と伸び盛りの食肉加工業界へ

芝井 関西大学法学部在学中はどのような学生生活を過ごされましたか。

井川 私は政治学科に在籍し、上林良一先生のゼミに所属していました。当時のゼミの仲間は今でも付き合いがあります。学業以外では、当時のやりだった、夏はテニス、冬はスキーを楽しむサークルを立ち上げて、関西大学以外の学生にも加わってもらって、一緒にツアーなどを企画していました。

芝井 日本ハム株式会社に入社されたきっかけは何でしょうか。
井川 就職活動を始めた当初は商社志望でした。しかし、就職活動を進めていくうちに、商品を製造し、販売することに関心が出てきました。それができる伸び盛りの業種は何か……あれこれ調べるうちに食肉加工業界を知り、日本ハム株式会社に入社を決めました。

芝井 入社後はどんなお仕事を担当されたのですか。
井川 当時の日本ハム株式会社は、私が入社する直前の1985年2月に新発売された「シャウエッセン」などの加工食品の製造、販売を担う加工事業本部と、皆さまの食卓に並ぶお肉を供給する食肉事業本部があり、私自身は、食肉事業本部の中でも、当時はあまり付加価値の高くなかった内臓などを加工して、商品化する部署に所属していました。そうするうちに、当時は市場ニーズが低く、安価だった鶏の手羽肉を主原料にした「チキチキボン」の開発に携わり、ブランディングの方法や宣伝を工夫して、戦略的に認知度を上げていくことに取り組みしました。また、加工事業本部長時代には、弊社の看板商品である「シャウエッセン」の改革を進めてきました。シャウエッセンは単一ブランドとしてロングセラーとなり、拡大し続けてきましたが、それまでの慣例を破り、

カットしたシャウエッセンを具材に用いたピザを開発したり、チーズ入りやホットチリ味などのバリエーションを増やしたりするなど、これまでタブー視されていた領域にチャレンジしてきました。
その他には、レストランチェーンや回転寿司チェーンなどを顧客に持つ外食事業の担当役員として、新たな顧客開拓や、商品開発に携わって来ました。外食事業はメニューが採用されない場合は、売上がゼロになります。その代わりに、大型商品が導入された時には非常に大きな実績を会社にもたすことができるダイナミックな仕事であり、こちらの事業においてもやりがいのある日々を過ごしてきました。



▲井川さんが開発に携わった「チキチキボン」は発売以来人気のロングセラー商品

■対談



◆画期的な商品で
人々に「食べる喜び(the joy of eating)」を

芝井 1980年ごろまで、日本のスーパーマーケットで市販されていたソーセージは、ドイツのものとは全く異なるものでした。そんな中で、ドイツの味が忠実に再現されたシャウエッセンを初めて食べた時は本当に感動しました。

井川 シャウエッセンは、当時としては珍しく、天然の羊腸に豚肉と香辛料を詰め、加熱した時に、「パリッ!!」とした食感が感じられる、本場ドイツにも負けない品質を実現した商品となりました。今でも弊社を代表する看板商品です。

芝井 御社は、日々、消費者が望んでいるもの、あるいは望んでいる以上の価値あるものを提供されてきたのですね。

井川 わが社は、「食べる喜び」を基本のテーマとし、時代を画する文化を創造し、社会に貢献する。これは、ニッポンハムグループの二つある企業理念の一つです。

「食べる喜び」とは何か。創業者の大社義規おおこさよしのりが日本ハム株式会社の前身「徳島食肉加工場」を創業した戦中から戦後間もない頃は食糧事情が悪く、人々は食べることで喜びでした。日本の高度経済成長とともに、人々の生活は豊かになり、おいしいものを食べるのが喜びになり、現在は仲間や家族と一緒に食べる、外でバーベキューして食べるというように、食べることは単に生命を維持する活動ではなく、コミュニケーションツールの一つになりました。弊社の発展は、今までにない画期的な新商品を社会に送り出すことで、「食べる」という日々の営みの中にある喜びを提供してきたことによるものだと理解しています。

芝井 食品はモノではありますが、それらが実際に食べられる場面を想像しながら、単なるモノの消費だけではないコトの消費や食の文化につながります。そうした見方を大事にして、新たな商品を開発され、現在の規模にまで成長を遂げられてきたのですね。今後はどのような分野に力を入れていきたいとお考えですか。

井川 これからも消費者の皆さまに長くご愛顧いただける、弊社を代表していけるような製品を開発していきたいですね。

一方で、食肉を扱う企業として、食肉の流通を進化させていくことは使命の一つだと感じています。現在、弊社は日本中の外食店やスーパーマーケットなどに、鶏肉・豚肉・牛肉を業務用の塊の状態で納品しています。例えば、スーパーマーケットであれば、店頭販売用に店内でスライスし、小分けにするのですが、この工程をあらかじめ産地で終えることができれば、スーパーマーケット側にとっては、手間や人件費がかからず、衛生面のリスクも軽減されます。このように、お客様の課題を解決していく製品を開発することができれば、ブランド化するのが難しかった食肉においても付加価値のあるブランド商品として広がっていくことが期待できます。

芝井 植物由来の肉(プラントベースミート)や培養肉(細胞性食品)などにも着目されていますね。

井川 弊社は、現在、日本国内の食肉市場全体の約20%、ハム・

「食べる」という日々の営みの中にある喜びを提供してきました。これからも消費者の皆さまに長くご愛顧いただける製品を開発していきたいですね。

食べることは単に生命を維持する活動ではなく、コミュニケーションツールの一つになりました。

今までになかった画期的な新商品を社会に送り出すことで、

ソーセージの約18%のシェアを占めています。また、弊社の計算では、日本人のたんぱく質摂取量の約6%を弊社が供給しています。この数年、栄養素としてのたんぱく質への注目が高まっていますね。弊社としては、今後もたんぱく質を供給し続けていくことが重要な社会的責任だと考えています。

今、世界で食肉の需要が上がり続けており、2025～2030年頃に食肉の需要と供給のバランスが崩れる「たんぱく質危機(protein crisis)」が起こるとされています。それに対して、「たんぱく質の安定調達・供給」を果たすことは弊社の解決すべき社会課題だと認識しています。消費者の皆さまに食肉を含めた様々な良質なたんぱく質をお届けすることが重要な取り組みとなっておりますので、培養肉や植物由来の肉の研究を続け、たんぱく質不足への対応をしていかなければなりません。

◆「たんぱく質を、もっと自由に。」

芝井 関西大学では2018年度に「KANDAI for SDGs推進プロジェクト」を発足させ、積極的にSDGsの取り組みを推進してきました。御社でも「Vision2030」を策定され、解決すべき社会課題を整理されていますね。

井川 「Vision2030」では「たんぱく質を、もっと自由に。」を謳い、それぞれの社会課題ごとに達成するSDGs分野を明示しています。弊社らしいところと言えば、アニマルウェルフェアや家畜由来の温室効果ガス削減などはやはり注力すべき領域だと考えています。また、先ほど話題になったシャウエッセンは包材を工夫し、プラスチック使用量を削減しました。たんぱく質を安定的に供給できるよう、その基本となる持続可能な地球環境づくりに取り組んでいます。

芝井 本学でも教員、職員、学生が熱心に取り組んでくれて、SDGs推進のためにいろいろな試みをしています。

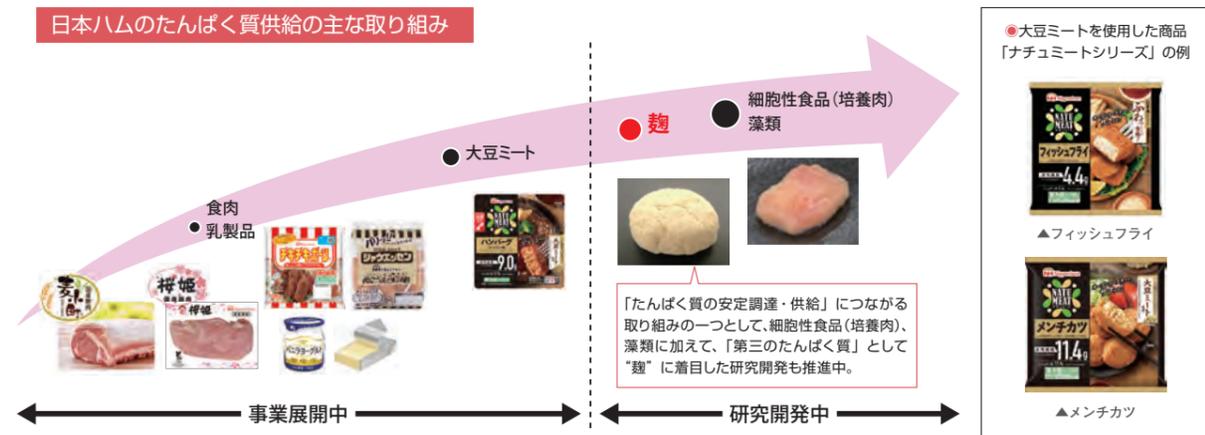
本学は明治大学と法政大学の三大学間で連携協定を結び、交流を深めていて、SDGsについても、毎年、本学と法政大学が共催で「SDGsWeeks」と名づけた行事を実施しています。当初は大学ごとの学生チームで活動していましたが、最近は両大学混成のチームで活動をするところも出てきました。東京と大阪ではものの捉え方や感じ方も異なっていて、学生たちはそういうことも楽しみながら活動していて、興味深い状況が生まれています。

また、SDGsの取り組みに関連して、大阪・関西地区の最大の関心事の一つが2025年大阪・関西万博ではないでしょうか。本学では「関大万博部」という学生の自主活動団体があります。当初は10人ほどの学生から始まり、今は50人ほどまでになったと聞いています。学生たちには万博を見るだけではなく、実際に関わることで、気付きや学びの機会になればと願っています。

また、万博は本学の取り組みを知っていただく絶好の機会でもありますので、私たちが各方面にアプローチして、大阪府と大阪市による「大阪ヘルスケアパビリオン『展示・出展ゾーン』」のリポーンチャレンジに参画し、中小企業やスタートアップ企業と協働して本学も出展することになりました。

1970年の大阪万博当時、私は中学3年生でしたが、世界各国のパビリオンや参加企業の展示に胸を躍らせた記憶があります。井川社長は何か印象に残っていることがありますか。

井川 私も会場を訪れるたびにワクワクした記憶があります。弊社の記録によると、1970年の大阪万博で弊社がアメリカンドッグを提供したとのこと。今はコンビニエンスストアやお祭りの出店でお馴染みのアメリカンドッグですが、当時は弊社の提供したもので初めて口にしたという方が多かったようです。新しい食に出合うのも万博の楽しみの一つですね。





芝井 敬司—しばい けいじ
 ■学校法人関西大学理事長。1956年大阪生まれ。1978年京都大学文学部史学科(西洋史)卒業。1981年京都大学大学院文学研究科博士課程後期課程中途退学。1984年関西大学に着任。文学部長、副学長、学長を歴任。2020年から現職。独立行政法人大学改革支援・学位授与機構評議員。公益財団法人私立大学退職金財団評議員。一般社団法人大学スポーツ協会理事。公益財団法人大阪府スポーツ協会副会長・理事。

2025年に「ビジネスデータサイエンス学部(仮称)」の設置を構想しています。実際のデータを使い、そこからどんな発見があるか、何ができるかを追い求める教育を展開していこうとしています。



◆食やスポーツを通じた地域・社会との共創共栄

芝井 話は変わりますが、2023年3月、北海道日本ハムファイターズの新球場「ESCON FIELD HOKKAIDO」を核とした「北海道ボールパークFビレッジ」のオープンが大変話題になりましたね。非常にアイデアに溢れた挑戦だと感じました。

井川 私がオーナーを務めています。親会社とあまり関与しないのが、北海道日本ハムファイターズの特徴で、弊社からは社長、役員2人と若い社員が2人ほど出向しているだけです。球団には、野球をビジネスとして考えていきたいという人や新しいことに挑戦したい人が、球界だけではなく、商社、銀行、省庁などから集まってきました。なので、みんなめっちゃ積極的で、まさしくベンチャーの様相です。弊社としては、莫大な資金を投資したこともあり、コロナ禍の中、不安だらけでしたが、幸いなことに、オープン日の2023年3月30日はコロナ禍が落ち着き、良い結果になったと感じています。

芝井 プロ野球球団の経営に携わるきっかけは何でしょうか。

井川 戦前・戦中から戦後にかけて、日本人は栄養が不足しがちで、背も低く痩せていました。ところが、敗戦後、日本にきた進駐軍は背も高く、筋骨隆々。その差は何か。創業者の大社義規は、その差はたんぱく質不足にあると考え、戦災で焼失した弊社の前身「徳島食肉加工場」も戦後まもなく事業を再開しました。たくましい体作りには、栄養価の高い食事と適度な運動が必要だということで、大社はスポーツの重要性も理解していました。野球ファンだった大社は、たまたま同郷の香川県出身で野球選手・監督として活躍された三原脩さん(みはら すすむ)のご縁から、球団経営に携わることになりました。2024年は日本ハムファイターズとなって50周年の佳節です。「ESCON FIELD HOKKAIDO」では、さまざまなイベントを予定していますので、どうぞ楽しみにしてください。

◆挑戦を通じて成長する人財を育む企業風土づくり

芝井 母校関西大学は2023年10月11日に吹田市山田南に新しく「吹田みらいキャンパス」を開設しました。千里山キャンパス

から直線距離で2kmほどの新キャンパスに、国際学生寮や運動施設のほか、14番目の学部として、2025年4月にビジネスデータサイエンス学部(仮称)の設置を構想しています。

井川 それは素晴らしいことですね。社会経済活動や人々の行動によるデータをどう分析するか、そしてブランディングにどう活用していくのかは、どの業界でも最大の関心事の一つではないでしょうか。今はもうマス・マーケティングの時代ではありません。弊社としては、データを活用したマーケティングや商品開発ができる人財はとても魅力的で、期待は大きいですね。

芝井 学部名に「ビジネス」とあるのは、IT系エンジニアの育成がメインの教育目標ではないということを明示する意味があります。データサイエンスはツールの一つで、企業や自治体などから提供される実際のデータを使い、そこからどんな発見があるか、何ができるかを追い求める教育を展開していこうとしていて、私もそこでの学びに大いに期待しています。

井川 若い人々には大学卒業の段階ではまだ見えない可能性があります。弊社入社後に活躍できるかどうかは、人財と企業風土がフィットするかどうか大きいのではないのでしょうか。弊社は「従業員が真の幸せと生き甲斐を求める場として存在する」をもう一つの企業理念としています。フィットすれば個々の人的資本は大きくなり、企業価値も高まっていくと考えています。弊社は挑戦する人財の育成をめざし、社員が挑戦しやすい企業風土づくりを心がけています。

芝井 最後に関大生にメッセージをお願いします。

井川 大切なのは柔軟性と機敏性、そしてやりきる力だという話を私はよくしています。いろいろな話に耳を傾け、吸収し、自身の考えをまとめる、認識が誤っていたら修正する、その繰り返しが柔軟性に繋がります。しかし、言葉では理解していても実際に行動が伴わなければ意味がないから、機敏性も重要です。そして、行動すると決めたら最後までやりきる。やりきらないと、失敗しても次の成長に繋がりません。どうか、自分で決めたことは最後までやりきることにこだわってほしいと思います。

大切なのは柔軟性と機敏性、そしてやりきる力です。行動すると決めたら最後までやりきる。やりきらないと、失敗しても次の成長に繋がりません。



井川 伸久—いかわ のぶひさ
 ■日本ハム株式会社代表取締役社長、株式会社北海道日本ハムファイターズ取締役オーナー。1961年大阪府生まれ。1985年関西大学法学部卒業。同年日本ハム株式会社入社。執行役員加工事業本部営業本部フードサービス事業部長、代表取締役副社長執行役員加工事業本部長、代表取締役副社長執行役員経営企画本部長を経て、2023年4月から現職。

話題の「ES CON FIELD HOKKAIDO」で日本ハム株式会社前田常務執行役員(左)、井川さん(中央)、株式会社北海道日本ハムファイターズ小村社長(右)と▼



LEADERS NOW!



仕事も子育ても

人生の基礎は「秀麗寮」に

●株式会社鶴屋百貨店 子供用品部長
松本 晃世 さん —文学部 1997年卒業—

「人生の全ては〇〇で学んだ」。よく聞くフレーズだが、熊本の百貨店・鶴屋百貨店の松本晃世・子供用品部長にとっては「関西大学の4年間・秀麗寮で学んだ」ということのような。華やかだが厳しい百貨店ビジネスに身を置く松本さんに、女性が働きやすい職場環境の整備に奮闘した経験や熊本地震で感じた思い、人生の原動力となった関大時代について振り返ってもらった。

松本(旧姓:山田) 晃世—まつもと(やまだ) あきよ
■株式会社鶴屋百貨店、子供用品部長。1975年熊本県生まれ。県立人吉高校、関西大学文学部教育学科(教育心理専攻)卒業。1997年鶴屋百貨店(本社・熊本市中央区)入社。インポート雑貨、新店準備室プロジェクトなどの担当を経て、2005年化粧品などのセールスマネジャーに昇進。その後2度の出産・育児休暇を経験し、人事部の教育グループ長兼鶴屋保育園統括責任者代理などを経て2022年から現職。

●女性が働きやすい職場づくりに奔走

取材対応をしているときも、お客さんがそばを通ると「いらっしゃいませ」と声をかけ、笑顔で会釈する。その姿は紛うことなき「デパートのセールスパーソン」である。「女性が多く活躍し、華やかでキラキラで、世界のスーパーブランドから地元のお漬物までそろっている」。そんな熊本を象徴する鶴屋百貨店に入社して27年目。これまでファッションやブランド品といった売り場でキャリアを重ねる一方、「女性が働きやすい職場」づくりに奔走してきた。「鶴屋は昔から女性従業員の割合が高かったのですが、入社当時のマネジメント職は全員、男性でした」。松本さんはそう振り返る。やがて徐々に女性管理職が増え、自身も売り場の責任者、セールスマネージャーに昇進する。30歳の時だった。

「その時に最初の妊娠・出産を経験したのですが、当時の上司の部長が女性で、報告した際の一言目が『よかったね』でした。その言葉が一番の励みになりました」。そして「妊娠期間中でもバリバリ仕事をする、自分なりの啓発活動」を、周囲にするようになる。「仕事を単に過小化するのではなく、できるときはできる。できないときはできないので。妊娠したらお辞めになる先輩方がいらっしゃって、もったいないなあと感じることもありました」。

自身や夫の両親は少し離れた地域に住んでおり、頼るわけにはいかない。そこで平日と土日祝日で違う保育園・託児所に預けたり、ベビーシッターなどを雇ったりしながら、夫と協力して子育てと仕事の両立に奮闘してきた。「親戚に『そこまでして仕事をするの』と言われたこともありましたが」。そんな経験から人事部時代には、社内にある認可保育園と企業主導型保育園の設置に携わり、土日の出勤が多い従業員も子供を安心して預けられる環境を整えた。一つの企業に二つの保育園があるのが珍しかったのか、他地域の百貨店をはじめ全国の企業から視察が相次いだという。

好きだからこそ仕事も諦めたくないし、家族だけでなく職場の仲間やお客さんともずっと笑顔でいたい。自分の悩みは、周囲のママたちの悩みでもある。その課題を解決したい。そんな想いで奔走してきた。

●熊本地震で再認識した「地元の支持」

松本さんは人吉市にある熊本県立人吉高校の出身だ。進学の際に、なぜ関大を選んだのか。

「どうしても地元から外に出たい、という思いがあったんです。その時、関大出身の同窓会会長から良さを教えていただいて。親戚が大阪にいたこともあり、両親から『関大だったらいいよ』となりました」。

水道水で顔が荒れることもあり、熊本・人吉の水の良さを改めて知ったこともあったが、「本来の意味で、関大という『水』には合いました」。そして就職活動では「地元に戻ってね、という両親の声もあった」とこともあり、熊本に戻って社会人となった。

鶴屋百貨店の企業ミッションや行動判断基準を念頭に「お客様のお役に立ちたい。そのためにはどういう品揃えが必要なのか、接客サービスが求められるのか」。それを考えることが、地元の顧客に支えられている百貨店の役割だと思っている。



▲松本さんが設立に携った従業員福利厚生施設「鶴屋保育園 SmiliA(スマイリア)」。土日の出勤が多い百貨店独自の勤務体系に即した保育時間が設定されており、子育て中の従業員がキャリアを中断することなく働き続けられる環境が整えられている

鶴屋百貨店・本館6階「キッズテリア」内の室内遊び場「ピッコロの森」で▶



住民に頼られ、愛されているお店であることを改めて感じたのが、2016年の熊本地震の時だ。

震度7の激しい揺れに2度も襲われ、熊本のシンボル・熊本城も大きく損傷して、被災していない人がいない、という状況だった。松本さんも避難所や車内などで過ごしつつ、ヘルメットをかぶって店舗の早期営業再開を目指した。そんな状況で「鶴屋が明日、営業再開するってよ」「鶴屋が開かんと元気でらんもん！」という避難者の声を聞き、従業員は号泣したという。当時のエピソードをまとめた冊子が、鶴屋百貨店のホームページで公開されている。



▲2016年の熊本地震で甚大な被害を受けた熊本のシンボル「熊本城」。復旧・復元に向けて修復が進む

◀開店まもないころの鶴屋百貨店(写真中央)。地上3階、地下1階建ての建物は熊本県で初の近代建築だった(1953年撮影・毎日新聞社提供)



「鶴屋百貨店 とっておきの話
～熊本地震から学んだおもてなしの原点～」
<https://www.tsuruya-dept.co.jp/story/index.html>▶

LEADERS NOW!

■リーダーズ・ナウ [卒業生インタビュー]

◎その後の全てを支えた4年間

いまや鶴屋百貨店の大黒柱の松本さんだが、そのバックボーン(精神的支柱)は4年間過ごした関大の学生国際交流館・秀麗寮にある。「苦しくなったときでも立ち戻って初心に戻れるところ。私の一番の財産です」。

松本さんは秀麗寮で何を学んだのか。

自身が入寮した時、女子寮の1年次生の日本人枠は9人で、入寮は狭き門だった。「面接や小論文もあったんです。大学に入るときより秀麗寮に入るときの方が勉強しました」と笑う。寮全体は男子寮や留学生らもいて、180人の大所帯。日本は47都道府県、世界は欧米、アジア等々からの出身者がいて、「今考えると全ての縮図でした」。日本人の先輩と後輩、文化習慣が異なる留学生が三つ巴状態で混在し、「共通点は同じ世代」という学生が自ら運営する自治寮だった。「例えば、あるアメリカ人の友人はあぐらをかいてごはんを食べる、だけど香港人の友人にはそれがノーだったりします」。そんな環境で24時間の集団生活を送るうち、ストレス

耐性や調整能力、そして「何より意見をいう力」を身につけた。

寮生活では「集団の規則に従いながら、いかに自分を埋没させないか。わがままではなく、相手を考えてその意見を受け入れながら、自分の考えを伝えていかなければなりません」。学んだのは、「ぶつからないと調和は生まれない」、ということだ。「議論しかしていませんでした。議論 議論 議論 議論 議論、みたいな感じです」。

3年次生の時には寮の副委員長に立候補。上級生に従う日本の文化をおかしいと感じる意見の対立があったが、「そこを融合させたいと思ったんです」。そんな松本さんの姿を見て、ある留学生が「留学生の意見も聞いてくれる、晃世が立候補するのを支援する」と応援演説してくれた。多様性やダイバーシティなどを24時間、感じ続けた4年間だった。それがその後の会社人生、子育て、PTA活動など、あらゆることの「背骨」となり続けている。

留学生らのおかげで世界各国に友人ができた。「夏休みになったら人吉に帰らずに、荷物を背負っていろんな国にいきました」。本当に楽しかった関大での4年間だった、と何度も語った。



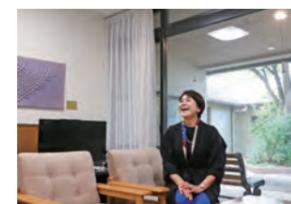
▲寮生が定期的に発行していた冊子



- 秀麗寮で過ごした日々
- 1 女子棟ラウンジで
 - 2 留学生のルームメイト、クララと
 - 3 寮寮での仮装
 - 4 寮合宿にて
 - 5 留学生送別会当日、お世話になった下川美彌子寮主事(右)らと



寮生時代の友人からの手紙



▲26年ぶりに秀麗寮を訪れた松本さん。(左)友人と過ごした女子棟ラウンジにて (右)議論を交わした委員会室で



- 秀麗寮で出会った留学生の友人を訪ね
- 6 ベルギーの留学生訪問時
 - 7 留学生宅でパーティ衣装での記念撮影
 - 8 一緒に旅行した寮の友人と
 - 9 フランス訪問時
 - 10 留学生のご家族と
 - 11 12 秀麗寮で出会った留学生と

◎ノーではなく「ジャスト・セイ・イエス」の人生を

その秀麗寮で留学生に囲まれ、言われたことがある。「日本人は、『バット、ピコーズ』しか言わない。『ジャスト・イエス』からいかないと、前に行けない」と。最初から否定して言い訳から入るのではなく、まずは受け止め、先に進めようというのがその心だろう。「このことは私の指針になっています。だから私は『バット、ピコーズ』は言わない。鶴屋に入ってから常に『イエス』か『はい』か『喜んで』を心がけています」と笑いながら話す。その精神で仕事も子育ても楽しめた、と振り返る。

今の学生に伝えたいこと。それは繰り返しになるが、「関大の4年間に経験したことが、その後の人生のベースになっている」ということだ。卒業論文のタイトルは「秀麗寮における集団心理」で、その中に「学んだこと」として次のように書いた。「私の前にまだ道はないけれど、私の後ろには道はある」

やはり、人との出会いが人生を変える。だから、関大で多くの人に出会って欲しい。「自分から進まないでチャンスは訪れない。まずは飛び込んでみて、何か起きたら対処していけばいいんじゃないかな」。楽か、苦しいか二択になったら、苦しい方を選んでみながら「それを楽しめるといいのかな」とも語った。

「ジャスト・セイ・イエス」の人生を。松本さんは後輩たちに、希望のまなざしを送っている。

自分から進まないでチャンスは訪れない。まずは飛び込んでみて、何か起きたら対処していけばいいんじゃないかな

■株式会社鶴屋百貨店

1952年創業。現在は熊本県内唯一の百貨店として、熊本城や繁華街に近い熊本市中心部に本館・東館などを展開するほか、県内の主要地域で店舗を営業。2023年2月期の売上高は454億7600万円、同月末の従業員数は541人(うち女性320人)。企業ミッションは「お客様に幸福な体験をご提供すること」、行動判断基準は「お客様は家族である」。

2016年4月14日と16日に熊本県内で2度の震度7を記録した熊本地震では、一時休業や部分営業を余儀なくされ、従業員も被災者となったが、同年6月1日に全館での営業再開にこぎ着けた。「その経験と想いを次世代に伝えよう」と、当時、顧客対応や接客などに当たった従業員らの声を集めた「鶴屋百貨店とおきの話〜熊本地震から学んだおもてなしの原点〜」が、同社ホームページに公開されている。



▲鶴屋百貨店 本館外観。左奥は東館

鶴屋女子バスケットボールチーム公式キャラクター「つるっぴー」▶



■リーダーズ・ナウ [卒業生インタビュー]

誰もが報われる 拠り所になりたい

コロナ禍を経て感じた清水寺の存在意義

●清水寺僧侶
大西 英玄 さん —社会学部 2001年卒業—

本誌2度目の登壇となる大西英玄さん。10年前の当時、歴史的
古寺の次世代を担う僧侶として、出自と向き合いながら、新しい
取り組みに挑んでいた。現在は、執事として、また生まれ育った
成就院の住職として、医療、福祉、教育、文化の分野まで活躍され
る大西さんは、これからの清水寺の有り様を示そうとしている。

大西 英玄—おおにし えいげん
■1978年京都府生まれ。平安高等学校
(現：龍谷大学付属平安高等学校)、2001
年関西大学社会学部卒業。2年間のアメ
リカ留学を経たのち、和歌山県高野山で
加行し、2005年に清水寺に帰山、
2013年に成就院住職に就任。現在、清
水寺の執事として、山内外の法務を勤め
る。祖父は、元貫主の故・大西良慶和上。



▲熊本地震の慰霊祭での大西さん



●宗教施設の「渉外」として、世の中へ「お返し」を

1200余年にわたり、多くの参拝者を迎えてきた京都・音羽山
の清水寺。かの寺の8人いる僧侶の一人である大西英玄さんは、
10年前にも増して多忙だ。仏事、年中・月例の行事、貫主の法話
行脚の随行に加え、ウェブサイトやSNSでの情報発信も中心に
なって手掛ける。また、世界宗教者平和会議の日本委員会の理事、
社会福祉施設の副理事長といった各種団体の要職としても、精力
的に活動している。宗教はもちろん、医療、福祉、教育、文化と
多様な分野に活動の場を広げている。

大西さんは自身の一連の仕事を「渉外」とくくり、「すべてはお
返し」と結ぶ。「清水寺は歴史的文化遺産であると同時に、現在進
行形の宗教施設でもあります。後者に立てば、拝観料やお賽銭とい
う皆様からの善意に対して、お返しをしなければなりません」。

●ピンク色のライトアップにも「イエス」

「お返し」の精神は、企業やアーティストとのコラボレーショ
ンにまで至る。

清水寺は長年にわたり、化粧品の大手ブランド、エステロー
ダー社と「乳がんキャンペーン」を共催。「乳がんのない世界」を
めざす同社の社会活動に賛同し、毎年10月1日には寺を、活動の
象徴であるピンク色のライトアップで染める。また、医薬品開発
を手掛けるシミック社とは、お薬手帳の専用ICカードを封入した
「おくすり御守り」を共作した。アーティストでは、世界的なギタ
リストであるMIYAVIさんとの協働が記憶に新しい。世の平穏と
世界平和の祈りを込めた奉納ライブの全世界配信が話題になった。



その他、気鋭の若手の作品が集うアートフェアを定期的
に開催するなど、清水寺を舞台に先進的な取り組みを
続けている。

あまたあるコラボの打診に、大西さんたちは基本的
に「ノー」とは言わない。「お話をいただく皆様の
根本に共通してあるのが、『感謝の気持ちを伝え
たい』ということですから」。だから、宗教施設
としてできることを最大限行う。「寺をライトア
ップするだけでは、テーマパークと変わりませ
んので」と、当夜はずっと開門し、拝観料も
もらわず、乳がんで亡くなった人々の追善供
養の法要を行う。「せめてこの晩だけでも、
乳がんの予防啓発に思いを寄せて足を
お運びいただければ、と考えた次第です」。
現在進行形の寺としての大義を常に考
えている。



LEADERS NOW!



苦しい中でも寺に足を運んでくださった方たちに、何らかのお返しができる清水寺でありたいと思っています

●自分が果たすべき責任とは何か

悶々とする日々の中、知己の人に掛けられた言葉が響いた。「寺の和尚を終生勤めることは、一人の人間の生き方として意義がある」。社会の外側にいるように感じていた心が晴れた。「当時の私は、私的な感情を超えた“後押し”を求めているような気がします」。帰国後、高野山での加行を経て、大西さんは清水寺に帰ってきた。しかし、その後が順風だったわけでは決してない。快活で活動的な大西さんの姿ばかりが多くメディアに取り上げられていたが、その裏では常に葛藤を抱えてきた。「僧侶になりたての頃は、自分の状況や仕事を周りの方々にうまく説明できないジレンマがありました」。学生時代の友人とは、あまりに異なる世界に身を置く自分。「何か恵まれているように思われるのも本意ではないし、変に誤解されることを恐れていました」。

時を重ねるにつれ、悩みは周囲の期待と自力の差に及ぶようになった。「清水寺の僧侶に寄せられる希求に対して、拙い自分に何ができるのだろう。果たすべき責任とは何なのだろう」と、逡巡した。

●ファーストレディ案内の大役が報われる

生きていると誰もが抱える悩みや葛藤、苦難。大西さんはどのように対処してきたのか。一つの境地を垣間見たエピソードがある。2015年の春先、アメリカ総領事館から清水寺に連絡がきた。聞けば、当時のアメリカ大統領夫人、ミシェル・オバマ氏が寺を訪ねたいという。「英語が話せるということで、私が案内役を仰せつかりました。領事館職員、SP、日本の警察官などが寺に大挙し、連日連夜、案内のリハーサルをするんですね。まあ、大変でした(苦笑)」。多くのマスコミとSPの殺気立つ目を感じながら、当日を無事に終えた。

それからしばらくしたある日のこと。「知人からグリーンカードを取得するために推薦状に一筆書いてほしいと頼まれたんです」。グリーンカードとは、アメリカ合衆国における外国人永住権の証明書のこと。申請担当の弁護士に「ファーストレディの案内役を務めた僧侶の推薦があれば大丈夫と言われたそうです(笑)」。

●生産性のない自らに疑問

生まれは、清水寺の中にある成就院。祖父は、清水寺を本山として北法相宗を設立した名僧大西良慶さん。出自からすれば、僧侶になるべくしてなったと思える大西さんだが、若い頃は「特段、寺を継がなければならないという使命感はありませんでした」。

高校卒業と同時に京都を離れ、吹田市内で念願の一人暮らしを始めた。大学では、社会学部産業心理学専攻(現心理学専攻)で広告心理学などを学び、スキーサークルに入り梅田のカラオケ店でアルバイトするなど、ごく普通のキャンパスライフを過ごした。卒業後は「そのまま寺に帰ることに漠然とした違和感を覚えて」、アメリカへ留学。異国の地で過ごすうちに、ある葛藤が生まれたという。「生産性のない自分に、いささか嫌気がさしました」。同級生が社会の一員として働き出している中、留学先でアルバイト生活する日々や、僧職という仕事を将来の生業にする可能性を漠然と感じている自分に疑問を持つようになった。



▲2015年3月に来日したミシェル・オバマ元米大統領夫人(左から2人目)、キャロライン・ケネディ元駐日米大使(同3人目)と長男のジャック・シュロスバーク氏。大西さんが案内を務め、清水寺の舞台上で能を鑑賞した

ミシェル・オバマ元米大統領夫人から贈られたブックマーカー▶バラク・オバマ元大統領のサインが刻まれている



清水寺境内 見どころガイド

大西さんがお薦めする清水寺境内の見どころスポットです。

1 仁王門

清水寺の正門。応仁の乱の戦火で1469年に焼失したが、1500年前後に再建され、2003年に解体修理された。正面約10メートル、側面約5メートル、棟高約14メートルの、再建当時の特徴を示す堂々たる楼門。(重要文化財)

2 西門

現在の建物は1633年再建のもの。ここから見る西山の日没は素晴らしく、極楽浄土に往生する入り口の門、浄土を親想する日想観(にっそうかん)の聖所。(重要文化財)

清水寺境内	
1 仁王門	8 阿弥陀堂
2 西門	9 奥の院
3 鐘楼	10 音羽の瀧
4 三重塔	11 成就院
5 随求堂	12 千体石仏群
6 経堂	13 子安塔
7 本堂	14 大講堂(寺務所)

注目

西門下に立つ「念彼観音力」が刻まれた石碑。祖父の大西良慶和上の筆による。北法相宗開宗、伽藍の重要文化財指定、本堂の修理落慶を記念し、昭和42(1967)年に建立された。

7 本堂

音羽山の断崖に建つ清水寺の本堂。1633年再建の木造建築。本尊の千手観音菩薩をお祀りしている。日本古来の伝統工法による丈夫な構造で、多くの参詣者で賑わう舞台を支えている。(国宝)

10 音羽の瀧

清水寺の開創の起源であり、寺名の由来となった瀧。ごんごんと流れ出る清水は古来「金色水」「延命水」と呼ばれ、清めの水として尊ばれてきた。3筋に分かれて落ちる清水を柄杓に汲み、六根清浄、所願成就を祈願する。

拙筆ながら、お役に立てるならと書かせていただきました」。その後、難なく受理されたと聞き、寺での大役の労が、時を経て異なる形で結実したと感じたのだ。「その時、その場面ではすぐに意義を見出せなくても構わないのではないか」。

確かに苦難や苦労は、いつか報われると思えば、我慢できるかもしれない。ただ「いつか」を夢見て、耐え忍ぶことができる人間がどれだけのだろうか。「私自身、自分の汗水が報われることを期待して仕事をしているわけではありません。努力は誰かに伝わるとも考えていません。ただ、絶望をしないだけなのです。苦しい時に絶望せず、向き合う人にも絶望しない。そうすることで、大西さんは心の平穏を保っているという。「私は自分を過大評価しません(笑)。一日を無事に過ごす、それだけを考えています」。



▲2021年の豪雨災害で大きな被害を受けた広島県三原市でボランティア活動を行う大西さん(写真手前)

●コロナ禍で再認識した清水寺の存在意義

そんな大西さんにとって、「地に足がついた」と感じる出来事があった。新型コロナウイルスの感染拡大。コロナ禍、清水寺にも参拝者が全く来ない日があったという。「それでも、私たちは門を閉めませんでした。それが、現在進行形の宗教施設、皆様のお心の拠り所としての在り方だと考えたからです。一大事においてこそ、清水寺は力を発揮しなければならない、お返しをしなければならない」。清水寺の存在意義を再認識すると同時に、自らが僧侶として生きる意味も見出した。

この「お返し」の思いは、大西さんが今後一層、取り組んでいきたいことの根本をなす。「苦しい中でも寺に足を運んでくださった方たちに、何らかのお返しができる清水寺でありたいと思っています」。人々の心の拠り所である清水寺で、大西さんの現在進行形は続いていく。



数学をがん対策に生かし、社会のために

コンピューター内で日本人一人ひとりを再現

Using Mathematics to Fight Cancer and Benefit Society

Recreate each Japanese person in a computer

- 社会安全学部 福井 敬祐 准教授
- Faculty of Societal Safety Sciences
- Associate Professor *Keisuke Fukui*

「データサイエンス」という言葉をよく目にするようになった。データサイエンスは、大量のデータに潜む知見や価値を明らかにし、社会課題や経営課題の解決に役立つ学問だ。2023年4月に社会安全学部に着任した福井敬祐准教授はデータサイエンスで用いられる統計科学を専門とする。理論の研究と共に、がん対策や医療への応用などに取り組んでいる。

We have come to see the term "data science" increasingly often. Data science is the science of uncovering the knowledge and value buried in large amounts of data to help solve societal and management problems. Associate Professor Keisuke Fukui, who joined the Faculty of Societal Safety Sciences in April 2023, specializes in statistical science used in data science. Along with researching theory, he is also working on cancer control and medical applications.

■古くて新しい統計科学

—専門の統計科学は、どのような研究分野なのですか。
統計科学は、大量のデータから何らかの知見を得て、意思決定に活用するなど実際の生活や社会に役立つことを目的とする科学です。コロナ禍では重症化のリスクがある人の分析や、感染拡大の予測がされましたよね。この分析や予測には統計科学が使われました。さまざまな分野の土台となる研究分野です。
「統計科学」という学問の歴史は古いのですが、近年は情報通信技術が発展してきたことにより、多様なデータが得られ、大量のデータや新しい種類のデータをどのように分析するのか、という理論の開発も必要になっています。今、注目されている分野で、AIや情報工学と同じように、データサイエンスに含まれます。

■がん対策に統計科学を活用

—具体的な研究内容を教えてください。
三つの柱があります。一つ目の柱は、統計科学の理論的な研究です。二つ目が、データを使ったがん対策への応用です。三つ目が、新規の治療法や予防法の統計学的な検証です。このうち特に、二つ目のがん対策をメインに研究を進めています。
大腸がんを例に、がんの治療技術が向上しているにもかかわらず、日本では患者が増え、死亡率も減っていません。その理由として、特に大腸がん検診の受診率の低さが考えられます。このため、受診率を何パーセント上げたら患者や死亡者がどれだけ減るか、ということを数学的にシミュレーションできるようにしました。
この時に使ったのが、私がメインの研究テーマにしている「マイクロシミュレーション」という手法です。日本に住むがん患者個人の歴史をコンピューター内に再現し、それを集計してがん対策の効果を調べます。例えば、55歳で大腸にポリープができ、56歳でがん化していたのに、検診に行かなかったために59歳まで発見できず、61歳で亡くなってしまった、というような歴史です。これを、年齢や性別などの個人特性が異なるデータを数多く蓄積し再現します。
シミュレーションなので、「56歳で検診を受けていたら」と仮定のシナリオを作り出すことができ、その結果「79歳まで生きたら」死亡までの期間を18年間延ばせたことになります。同様に集計した個々の歴史をもとに、検診の受診率を上げた場合に全体としてどれだけの効果があるかを調べられます。
がんは、さまざまな要因が絡み合って生じるため、画一的な対策が難しい。個人の予防の効果や将来の患者数の増減予測がないと、国もどの部位のどのようながん対策に注力すればいいのかが分かりません。ここで、統計科学が力を発揮します。

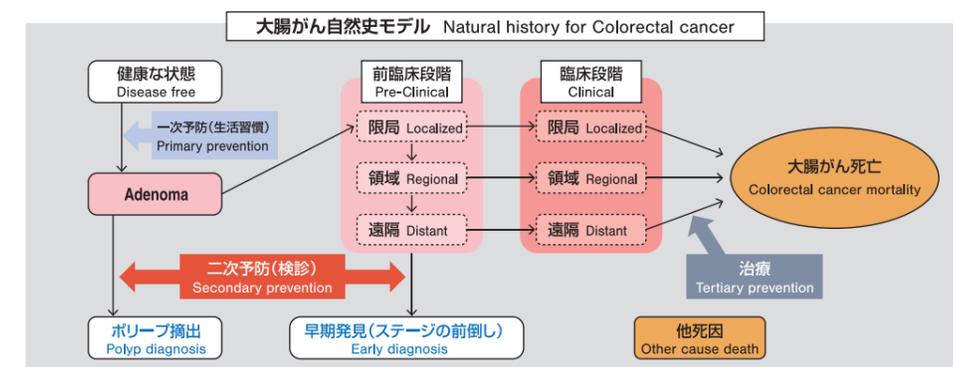
■ Statistical science is both old and new

— What sort of research field is your specialty of statistical science?
Statistical science is the science that aims to gain some knowledge from a large amount of data and use it for decision-making and other purposes for real life and society. You may recall that in the COVID-19 pandemic, there was analysis of people at risk of severe illness and predictions of the spread of infection. Statistical science was used for this analysis and prediction. It is a research field that serves as a foundation for various fields.
Statistical science has a long history, but recent advances in information and communication technology have led to the acquisition of a wide variety of data and the development of theories on how to analyze large amounts of data and new types of data. It is a field that is getting a lot of attention right now and is included in data science, as well as AI and information engineering.

■ Use statistical science for cancer control

— Specifically, what do you research?
There are three pillars. The first pillar is the theoretical research of statistical science. The second is the application of data to cancer control. The third is statistical verification of new treatments and prevention methods. Of these, my research is focused primarily on the second, cancer control.
Using colorectal cancer as an example, despite improvements in cancer treatment technology, the number of patients and mortality rates have not decreased in Japan. The reason may be the low rate of colorectal cancer screening. For this reason, we made it possible to mathematically simulate how much fewer patients and deaths would occur if we increased the rate by what percentage.
I used a technique called microsimulation, which is my main research topic. The histories of cancer patients living in Japan are reproduced in a computer, and the effects of cancer control are examined by aggregating them. For example, a history of a polyp appearing in the colon at the age of 55, and becoming cancerous at the age of 56, but it was not detected until the age of 59 because the patient did not go for a medical checkup, and the patient died at the age of 61. This is done by accumulating and reproducing a large amount of data with different individual characteristics such as age and gender.

● Microsimulation とがん自然史 Natural history and microsimulation



自然史内の状態間の推移を数理的にモデリング
Mathematical modelling of transitions between conditions in natural history

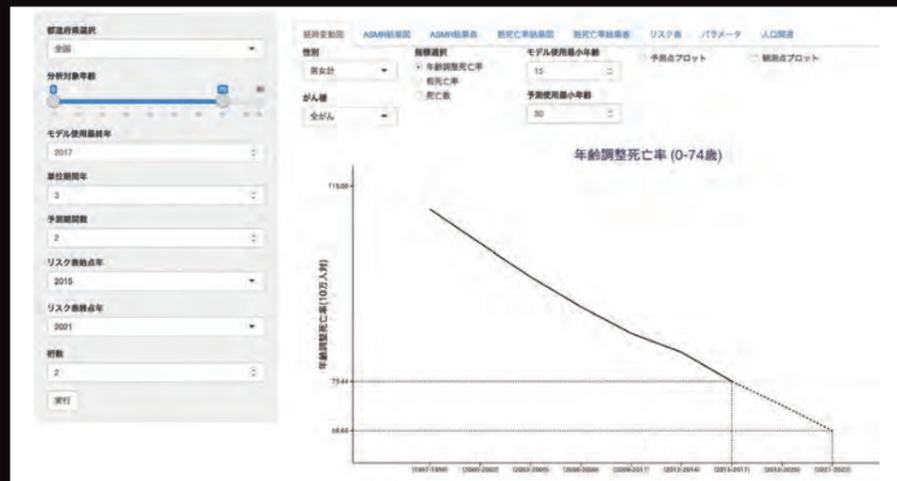
■研究最前線



日本がん登録協議会での登壇
Speaking at the Annual Meeting of the Japan Association of Cancer Registries

開発されたがん死亡予測のためのWeb application toolのインターフェイス。性別やがん種を設定することで、対応するがんの推移や予測結果を表示することができる

An interface of a web application tool for cancer mortality prediction. By setting gender and cancer type, etc, the corresponding cancer trends and prediction results can be displayed



■欧米に比べ、遅れている日本

——統計科学はそこまで進んでいるんですね。

ただ、アメリカだと約20年前から、国家的な規模でマイクロシミュレーションをがん対策に活用しています。日本はまだ研究者が個人で研究するレベルにとどまっています。

マイクロシミュレーションには、がんの罹患率や死亡率、検診の受診率などのデータが必要です。さらに、がんで亡くなった方に飲酒や喫煙などの原因となる習慣があったかどうか、どのようながんだったのか、などのデータを組み合わせます。

日本の国家的な政策に活用するためには、シミュレーションで再現する人口や個人の特性が日本社会を反映していなければなりません。日本と欧米ではがんの種類も異なります。このため、日本でも研究を進める必要があります。本来なら、受診した人が実際にがんにかかり、その後どうなったかという完全なデータが揃えばいいのですが、日本ではまだきちんとした仕組みがなく、データを得るのが難しいのが実情です。別々のデータをまとめて組み合わせ、数学的に明らかにしているイメージです。

■銀行での勤務を経て、再び大学で学ぶ

——研究者を志した経緯をお聞かせください。

実は、広島大学大学院で博士課程前期課程(数学専攻)を修了した後、一旦銀行に就職しました。学生の頃から「統計科学を使って社会課題を解決したい」と考えていたのですが、銀行の実務では統計学を活用する機会が私はあまりありませんでした。いろいろな情報を蓄積しても、分析して営業などに活用するまでには至らなかったのです。当時、データドリブンな考え方は重要だと思っていたので、大学院に戻って統計学を学び直しました。

その後、勤務した大阪国際がんセンターでは、「結果が怖いから」「時間がないから」などの理由で受診しない方を目の当たりにし、実際がん検診の受診率が低いことを知りました。

一方、受診しないがん患者のデータは蓄積されたものの、あま

り活用が進んでいませんでした。そこで「がん対策に役立てることができれば」と考え、がん対策に取り組むことにしました。

同センターで3年間勤務した後、大阪医科歯科大学や広島大学を経て、2023年4月に関西大学社会安全学部に着任しました。

私の研究の原点は数学です。今、取り組んでいる統計科学やがん対策は、数学の理論を実社会に生かすことができているため、とてもやりがいを感じています。

■社会安全学部の学生に期待

——今後の期待や抱負をお聞かせください。

現在は、欧米で当たり前で活用されているマイクロシミュレーションという手法を、日本で一から作り上げている段階です。

社会安全学部の学生は、本当にいろいろなことを学んでいますね。医療に関する授業や統計科学やプログラミングなど、将来、医療や数学の知識がある学生たちが一緒に研究してくれると考えると、とても楽しみです。

マイクロシミュレーションを研究していると、「人間にはいろいろな人がいる」と実感します。幅広く学び、多角的に考えられる学生にどんどん来てほしいですね。

今後は、希少がんの生存率を正確に算出する方法を確立したいと考えています。がん対策のためには正確な生存率が必要になりますが、希少がんは文字通り患者数が少なく、正確に算出することが難しいです。

また、データサイエンスや統計科学が、どのように社会に定着していくのかについて考える研究にも取り組みたいですね。



大阪国際がんセンター在籍時代(右上)。「ワールドキャンサーデー」活動の様子
Working at Osaka International Cancer Center (upper right of the figure)
"World Cancer Day" activities



Since this is a simulation, we can create a hypothetical scenario if the patient had been examined at age 56. As a result, if the person lives to age 79, the time until death is extended by 18 years. Based on the individual histories, you can see how much the overall effect would be if you increased the screening rate.

Because cancer is caused by a variety of factors, it is difficult to take uniform measures. Without an estimate of the effectiveness of individual prevention and the increase or decrease in the number of patients in the future, the national government does not know what cancer control measures to focus on in which areas. This is where statistical science comes into play.

■Japan lags behind Europe and America

——I can see that statistical science has progressed quite far.

However, in the United States, microsimulation has been used for cancer control on a national scale for about 20 years. Japan is still at the level of researchers doing their own individual research.

Microsimulation requires data such as cancer morbidity and mortality and screening rates. It also combines data such as whether the person who died of cancer had causative habits such as drinking or smoking, and what type of cancer the person had.

In order to be used in Japan's national policy, the characteristics of the population and individuals reproduced in the simulation must reflect Japanese society. The tendency of the type of cancer is also different between Japan and Europe and America. Therefore, it is necessary to push forward with research in Japan. Essentially, it would be nice to have complete data on the people who were diagnosed with cancer and what actually happened to them afterwards. However, in Japan, there is still no proper system in place and it is difficult to obtain data. Basically, separate data are collected, combined, and mathematically clarified.

■Studying at university again after working at a bank

——How did you decide to become a researcher?

Actually, after completing the first semester of the doctoral course (mathematics major) at Hiroshima University Graduate School, I got a job at a bank. I've wanted to use statistical science to solve social problems since I was a student, but I did not have many opportunities to use statistics in my banking practice. Even though we had accumulated a variety of information, we had not managed to analyze it and utilize it for sales and other purposes. At the time, I thought data-driven thinking was important, so I went back to graduate school and restudied statistics.

Later, at the Osaka International Cancer Institute, where I worked, I saw people who did not come for screening because they were afraid of the results or because they did not have time, and I learned that the cancer screening rate was actually low.

On the other hand, data on cancer patients who do not undergo screenings has been accumulated, but not well utilized. Therefore, I decided to work on cancer control, thinking that if I could use data for this purpose.

After working at the Institute for 3 years, I worked at Osaka University of Medicine and Dentistry and Hiroshima University before joining the Faculty of Societal Safety Sciences at Kansai University in April 2023.

The origin of my research is mathematics. The statistical science and cancer control that I am working on is very rewarding because I am able to apply mathematical theory to the real world.

■Expectations of students in the Faculty of Societal Safety Sciences

——What are your expectations and aspirations for the future?

At present, we are at the stage of developing a method called microsimulation, which is commonly used in the West, from scratch in Japan.

Students in the Faculty of Societal Safety Sciences really learn a lot of things. I am very excited to think that in the future, students with knowledge in medicine and mathematics will study together, such as medical classes, statistical science and programming.

When I study microsimulation, I realize that there are many kinds of people. I hope more and more students who can learn widely and think from many perspectives come.

In the future, we hope to establish a method to accurately calculate the survival rate of rare cancers. Accurate survival rates are necessary for cancer control, but rare cancers are difficult to calculate accurately because the number of patients is, as the name might suggest, small.

I would also like to engage in research that considers how data science and statistical science will become embedded in society.

大阪国際がんセンター時代に日本公衆衛生学会口演賞受賞の式典の様子▶
Scene from the Japanese Society of Public Health oral presentation award ceremony during the Osaka International Cancer Center



Topics ■トピックス [学内情報]

吹田みらいキャンパス START!



■「吹田みらいキャンパス」概要
 所在地：大阪府吹田市山田南50-2
 土地面積：約75,000㎡
 延床面積：約27,000㎡

新キャンパス開設特集・吹田みらいキャンパス

◎「吹田みらいキャンパス」開設式典を挙 新学部(設置構想中)、新国際学生寮、グラウンド、 クラブハウスを擁する新しい学びのフィールドが始動

10月11日、新キャンパス「吹田みらいキャンパス」で、開設式典を挙
 行した。式典には本学関係者に加え、国・自治体、メディア関係者
 など約200人が列席。開会宣言後、テープカット並びに芝井理事の
 挨拶に続き、前田学長から今後新キャンパスで展開を予定している各
 事業構想について説明があった。式典終了後は晴れ渡る秋空のもと、列
 席者を対象に施設の各所を案内した。

「吹田みらいキャンパス」は武田薬品工業株式会社所有の研修施設を、
 新たに学校施設として活用するもので、2024年4月に国際学生寮「関
 西大学グローバルハウス(KU G-House)」が、続いて2025年4月に「ビ
 ジネスデータサイエンス学部(仮称・設置構想中)」が開設予定のほか、
 グラウンド、クラブハウスなどの運動施設も設置される。施設の特長
 を生かして、企業・自治体との連携だけでなく、外国人留学生との
 交流、体育会クラブの活動など、多様な人が集い学びあう活気溢れる
 環境を創出する。

「吹田みらいキャンパス」という名称には、新たなキャンパスに国内
 外から多様な人々が集い、それぞれの「みらい」を描いて欲しいという
 願いが込められており、ここで展開される教育・研究・社会連携の実
 践が、私たちの社会を豊かにする「みらい」へとつながり、広がること
 が期待される。



芝井理事長の挨拶

内覧会の様子

前田学長による事業構想説明

TOPICS 1 「多文化共生社会」を実現し、社会課題を解決へと導く力を育む新国際学生寮 2024年4月「関西大学グローバルハウス」(KU G-House)を開設



人種や国籍、性別や価値観などが異なる学生たちが互いの違いや
 考え方を認め合いながら、日常の学生生活を過ごす新しい国際学生
 寮を吹田みらいキャンパス内に設置。この寮では、男女別ユニット
 に加え、性別を問わないオールジェンダーユニットを設け、すべての

学生に開かれた住みよい環境をめざす。また入寮生を対象に国際教
 養を身につけることができる独自プログラムを展開するだけでなく、
 「レジデント・アシスタント(RA)」が寮生の一人として、日本での
 生活に不慣れな外国人寮生の日常生活のサポートや担当ユニット、
 フロアの管理・運営から寮生間の交流を深めるイベントの企画
 に至るまで幅広く活躍する。

さらに入寮生や学生たちが主体的
 にさまざまな活動を発信し、キャン
 パス周辺で人と人とのつながりを
 生み出すことで、地域に開かれた多
 文化交流の拠点としての機能をめざ
 す。このような活動を通して、多文
 化共生社会の実現に必要な「コミュ
 ニケーション力」「問題解決力」
 「異文化理解力」などを育む。



寮室内▶

TOPICS 2 新たな価値を創造するビジネスデータサイエンティストを育成する本学14番目の新学部

2025年4月 ビジネスデータサイエンス学部(仮称・設置構想中)を新設予定

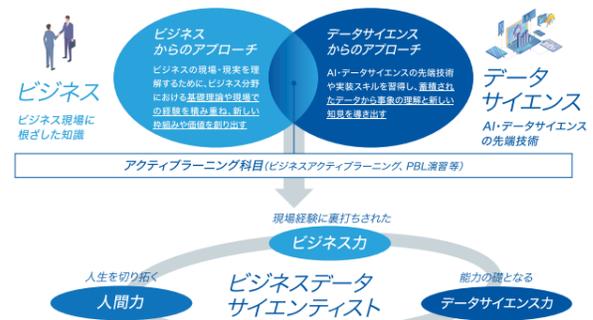


▲学舎外観

▲学舎エントランス

ビジネスにおいて、データサイエンスとイノベーションを結びつけ、新
 しい価値を創出する人材の育成をめざし、実践志向のデータサイエンス
 教育を展開する「ビジネスデータサイエンス学部」(仮称・設置構想中)を
 新設予定。ビジネスとデータサイエンスを体系的に学び、生きたデータか
 ら生きたスキルを身につけ、考動力を高める。

ビジネスとデータサイエンスの両者を体系的に学ぶ



現場経験に裏打ちされた

ビジネス力

ビジネスデータサイエンティスト

能力の源となる
データサイエンス力

※設置計画は予定であり、内容に変更があります。

学びの特色

- ▶文理の枠に捉われないきめ細やかな教育
少人数の手厚い初年次教育(ゼミ等)でビジネスとデータサイエンス双方の基礎知識を修得
- ▶専門性を深める高度な教育環境
実務家を含めた国内屈指の経験豊かな教授陣による実践志向の専門教育
- ▶実社会とつながりリアルな学び
企業との連携による実データを活用した実践的な学習や産学連携プログラムへの参画
- ▶主体的な学びを促すアクティブラーニング科目
ビジネスとデータサイエンスの融合による課題発見・解決能力を身につける実践的学修



卒業後の活躍イメージ

IT産業、メディア産業、製造業、金融業、シンクタンク、コンサルティング会社、ベンチャー企業などの幅広い業種への就職を想定。データサイエンティスト、マーケティングアナリスト、政策・戦略立案者、アントレプレナーなどとして個人や国・地方公共団体・企業内での活躍が期待される。

■学部長就任予定者からのメッセージ

●鷲尾 隆(わしお たかし)
 (現：大阪大学産業技術研究所教授)



21世紀は石油に代わって、
 データが経済社会の最重要資
 源であると言われています。

ビジネスデータサイエンス
 学部(仮称・設置構想中)は、データ分析を通し
 て社会課題を発掘し、その解決策をデザインす
 る実践力を習得することで、デジタル化社会の
 ビジネスにおいて躍動する人材の育成を目的と
 した日本初の教育機関です。

ビジネスデータサイエンス学部
 (仮称・設置構想中) 特設サイト



◎ 文部科学省「大学の世界展開力強化事業(タイプB)」に全国で唯一採択

COIL型教育の成果をもとに 次世代国際教育モデルの開発と展開を促進する



▲11月、IVEC2023でJIGEの設置を宣言した藤田国際部長(ブラジル・サンパウロ)

今年9月、関西大学、東北大学、千葉大学の3大学連携による「Blended Mobility Project (BMX)」で生み出す「Society5.0人材」の育成とそのインフラの創出が文部科学省の令和5(2023)年度「大学の世界展開力強化事業～米国等との大学間交流形成支援～」に採択された。本学が同事業に採択されるのは平成30(2018)年度に次いで2回目。

「Blended Mobility」(以下、BMという。)とは、オンライン教材やオンラインでの交流の機会を従来の「場所」に根差した授業方法と組み合わせた教育へのアプローチを意味する。本学が2014年度から導入し、前回の同事業に採択されたCOIL型教育での経験や成果を活かしながら、オンライン教育と渡航先での教育を有機的に組み合わせた留学制度を整備することで、「Society5.0人材」の育成を推進する。

また、この事業では、3大学が連携し、新たにBMによる次世代国際教育モデルの開発と日本国内全体での展開促進を担うプラットフォーム「JIGE (Japan hub for Innovative Global Education)」を設立。BM教育を担当する教員のトレーニング(キャパシティビルディング)やオンライン型国際教育の促進と効果検証、デジタルの学修証明の国内展開などの事業について、3大学がそれぞれの特長を生かしながら役割を分担する。この事業を通して、国内外の教育交流をさらに発展・高度化させ、連携大学や教育機関などと協力し、質の高い教育プログラムを世界規模で展開する。



◎ 国立研究開発法人科学技術振興機構(JST)「革新的GX技術創出事業」に採択

化学生命工学部・石川正司教授が 低環境負荷・高特性リチウム硫黄電池の開発を始動

化学生命工学部の石川正司教授(関西大学カーボンニュートラル研究センター研究員)が、日本のGHG(温室効果ガス)削減・経済波及効果に対して量的貢献が見込める蓄電池技術の創出を目指し、低環境負荷・高特性リチウム硫黄電池の開発を開始した。

本研究は、国立研究開発法人科学技術振興機構(JST)の革新的GX技術創出事業(GreX)のうち、「蓄電池領域」の公募テーマ4「軽量・小型・大容量を実現する電池開発」に関する研究として委託されたもの。石川教授チームリーダーのもと、この分野で活発な研究を進める大学や研究所などから15人の精鋭が集結し、電解液などのソフトな電解質を用いた常温動作型リチウム硫黄電池を開発、既存のリチウム電池のおよそ倍のエネルギー密度と長寿命化を目指す。

本電池は理論上、最軽量の密閉型蓄電池なので、ビルの屋上や家庭など従来は難しいとされていたさまざまな場所での電力貯蔵を可能とする。これにより、再生可能電力導入の促進、温室効果ガス低減に寄与するだけでなく、希少金属をほぼ必要としないため、製造時の環境負荷が低いことも魅力となり、開発の加速が期待されている。

●低環境負荷・高特性リチウム硫黄電池

電力貯蔵
都市部に便利

鉛蓄電池は重くてビルの高層に設置できないが、**リチウム硫黄電池は軽量の為設置可能**

移動体

リチウム硫黄電池の軽量を活かせるドローン航空機

レアメタルなしで可能

◎ 第43回「地方の時代」映像祭2023を開催

地域・地方からわが国のあり方を問う



▲第43回「地方の時代」映像祭コンクール授賞式

関西大学、吹田市、日本放送協会、日本民間放送連盟、日本ケーブルテレビ連盟が共同主催する第43回「地方の時代」映像祭2023が、11月18日～24日、千里山キャンパスにて開催された。今年は285作品の応募があり、34作品(グランプリ作品を含む)が各部門賞を受賞。18日に授賞式、記念講演、グランプリ受賞作品及び参加作品上映会、特別上映やシンポジウムが行われ、19日～24日にワークショップ、受賞作品&予選通過作品上映会、特別上映会などが開かれたほか、12月2日には関西大学東京センターにて、グランプリ受賞作品を語る会が開催された。



▲シンポジウム「危機の時代にメディアはどう立ち向かうのか？」

グランプリには、4月に行われた統一地方選挙に子育てをしながら挑んだ2人の女性議員の姿を通して、日本の選挙や政治、日本社会の今について考えるNHKの作品『立つ女たち～女性議員15%の国で～』が選ばれた。関西大学からは社会学部・齊藤ゼミの「私たちの答え～中国人留學生の学歴と社会～」が市民・学生・自治体部門の奨励賞を受賞した。



▲グランプリを受賞したNHK・細田直樹プロデューサー(右)

◎ 「KANDAI × HOSEI SDGs Weeks 2023」を開催

SDGs達成を目指し、実践知を磨き、考動する



11月20日～12月2日、関西大学と法政大学による「KANDAI × HOSEI SDGs Weeks 2023～実践知を磨き、考動する2週間～」が開催された。

関西大学と法政大学は、SDGsの達成に向けて、それぞれの教育研究の特長を活かしたさまざまな活動を展開している。その一環となる本イベントでは、SDGsの実践に必要な「実践知」を磨き、持続可能な社会の姿について主体的

に考えて動く「考動」するための多様なプログラムを開催。SDGsパートナー企業や団体・自治体の協力により、セミナーをはじめ、レーザーのハギレでパステケースを作る「アップサイクルミシン体験会～ハギレでレーザークラフト～」や、1万本を超えるカーネーションを使って巨大な絵を描く「大阪インフィオラータ2023」など、参加型イベントやワークショップなどが実施され、各会場は大いに盛り上がった。



▲ハギレでレーザークラフト



▲花絵アート「インフィオラータ」



▲アクションプランコンテスト表彰式

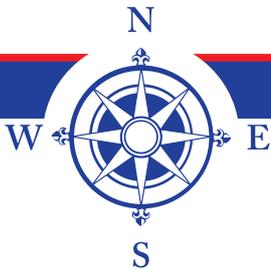


▲カルティエ ジャパン 宮地社長の講演

また、最終日の12月2日には「SDGsアクションプランコンテスト2023」も開催され、両大学から一次審査を勝ち上がったチーム10組が、SDGs達成に向けたアクションプランを発表。審査の結果、法政大学/関西大学の合同チーム「ガネーシャ」が発表した「インドと日本を結ぶフェアトレード×オーガニックコーヒー」が最優秀賞を受賞した。

KANDAI NEWS

■ 関大ニュース



コロナ禍前の賑わいが再び！ 第46回関西大学統一学園祭を開催



オープニングセレモニーで飛ばされたジェット風船▶



11月2日～5日、第46回関西大学統一学園祭が千里山キャンパスにて開催された。4年ぶりに全ての制限が撤廃された今年度のテーマは「笑てんか」。昨年「祭起動」した学園祭を再び「点火」し、多くの方々に笑顔届けたいという思いが込められた。今年度は目標来場者数15万人を掲げ、模擬店やステージ企画の数も大幅アップ。3日にはローランドさん、5日にはアンミカさんによるトークショーも開催され、連日、キャンパスは活気に包まれた。最終日の「後夜祭」では、応援団によるパレードから始まり、音楽やダンスの優勝者によるステージなどが繰り広げられ、熱気が冷めやらないままフィナーレを迎えた。

「関大防災 Day2023 ～広がれ！みんなの安全・安心！～」を実施

11月20日、学生・教職員・近隣住民ら約1万人が参加する防災啓発イベント「関大防災 Day2023～広がれ！みんなの安全・安心！～」が全キャンパス(千里山・高槻・高槻ミュージズ・堺・北陽・梅田)及び東京センターで行われた。

14回目となる今年は、マグニチュード7.6の「上町断層直下地震」が発生したと想定し、学生・生徒・園児や教職員の身の安全確保から、安否確認に至るまでのシミュレーションを実施。また、千里山キャンパスでは、歩行困難者の階段避難をサポートする非常用階段避難車や炊き出し訓練など、地元自治体・民間企業や近隣住民と連携しながら、さまざまな啓発イベントが開催された。



地震避難訓練



起震車による地震体験



消火器使用体験



炊き出し訓練

2025年大阪・関西万博に向けたプロジェクト「パピリ本～万国モヤモヤ博覧会～」を始動



▲プロデューサーからのメモが挟まれた本

11月22日から梅田キャンパス1階のTSUTAYA BOOK STORE梅田MeRISEにて、関西大学とカルチュア・コンビニエンス・クラブ株式会社、一般社団法人demoexpoは、2025年の大阪・関西万博に向けたプロジェクト「パピリ本～万国モヤモヤ博覧会～」を始動させた。



山里亮太さん

本プロジェクトは、本を通じた対話を創出し、未来の文化や価値観を提案するというもの。万博に向け発足した本学学生団体「関大万博部」が収集したZ世代の悩みに対し、本で解決を目指す書店によるパピリオン。山里亮太氏(南海キャンディーズ)らがプロデューサーを務め、悩み解決のための書籍を「パピリ本」として選出。プロデューサーのメモが挟まれたパピリ本を見た来場者が、自らのコメントを投稿できる参加型の展示企画となっている。

第73回全日本学生賞典障害馬術競技大会にて6年ぶりの団体優勝、3年ぶりの個人優勝で2冠達成！



▲障害馬術団体が6年ぶりの優勝(左から島村さん、漆原さん、仁部主将、光森さん、中沢さん)

11月2～3日、全日本学生馬術大会2023「第73回全日本学生賞典障害馬術競技大会」が兵庫県・三木ホースランドパークにて開催され、関西大学は総減点4で2017年大会以来、6年ぶりに団体優勝を飾った。

また、個人では7選手による1位決定戦の末、漆原竜吉さん(総合情報学部2年次生)が減点0で関西勢として2020年大会以来の優勝を果たした。

本学が障害馬術で団体、個人の2冠を達成したのは、2014年大会以来、9年ぶりの快挙となった。



▲個人優勝を果たした漆原さん 写真提供: 関大スポーツ編集局

KANSAI UNIVERSITY SOCIAL MEDIA

